

令和5年3月6日～9日

鳥羽市議会会議

**一般質問通告者一覧表**

発言通告者	議席番号	10番	氏名	戸上 健
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ これまでの一般質問における指摘等に係るその後の対応について</p> <p>中村市長就任後6年になる。この間一般質問で指摘、提案、要望した項目についてその後どのように対応したのか。結果はどうか。以下について問う。</p> <p>① 少子化対策、子育て支援策、家計応援について。  ② 高齢者支援策について。  ③ 都市計画税の税率の見直しについて。  ④ 地域経済振興、中小企業振興条例制定について。  ⑤ 離島対策について。  ⑥ パートナーシップ、ジェンダー平等について。  ⑦ 平和行政について。  ⑧ 図書館について。  ⑨ 市民の森小動物園について。  ⑩ 議会の一般質問での「検討・研究・調査」答弁の進行管理報告について。</p> <p>&lt;市長、教育長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	1 番	氏 名	南 川 則 之
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 本市の一人暮らしの高齢者を支える支援について</p> <p>鳥羽市の人口は、令和 5 年 1 月末現在 17,159 人で、その内 65 歳以上の高齢者は 6,919 人、高齢化率は 40.3%である。</p> <p>多くの市民は、高齢になっても住み慣れた地域で、自立した自分らしい暮らしを続けていきたいという望みがあり、そのためにも高齢者の「居場所づくり」の取組みと「見守り」など様々なつながりと支援が必要である。</p> <p>そこで以下の点について問う。</p> <p>① 市内における一人暮らしの高齢者数の推移について。  ② 鳥羽市高齢者福祉計画の取組み状況について。  ③ 高齢者が集うサロンの活用状況について。  ④ 高齢者福祉サービスの取組み状況について。  ⑤ 離島高齢者見守りのための「コミュニケーションロボット」を活用した実証実験について。  ⑥ 高齢者の支え合いの仕組みづくり推進のための行政の役割について。</p> <p>&lt;市長、副市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	2 番	氏 名	濱 口 正 久
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 離島における命の格差是正について</p> <p>命の格差是正について、救急車の来ない離島における救急搬送体制の対策の強化は喫緊の課題であり、令和4年6月議会での一般質問での市の答弁に対しその後の進捗状況と考えられる対策について以下の諸点について問う。</p> <p>① 改正離島振興法について。 ・役割と改正点はどうであるか</p> <p>② 離島の救急搬送体制の再構築に向けた対策のその後について。 ・市長の指示は ・各離島での協議はどうであったか ・救急搬送体制のフローチャートの進捗は</p> <p>③ 地域共生社会実現に向けた中での課題と安心安全のための対策について。 ・離島消防団の現状と課題は ・分遣所の配置の考えは</p> <p>④ 命の格差是正に向けた市長の考えは。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	2 番	氏 名	濱 口 正 久
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市の子育て支援施策の拡充における地域共生社会実現の可能性について</p> <p>地域共生社会実現の3本柱に稼ぐ・つながる・社会資源の効率化とあるが、鳥羽市における子育て支援の拡充は稼ぐ・つながるにおいて重要な施策であると考えている。さらに働く現場においても労働力の確保など様々な波及効果があり、市長が進める地域共生社会の実現に大きな可能性があると考えている。そこで以下の諸点について問う。</p> <p>① 担い手世代の子育て支援について。 ・鳥羽市における子育て支援の施策は ・子育て支援の現状と課題は・保育に預けられない人のニーズは把握しているか</p> <p>② 子育て世代の働ける場所と課題について。 ・鳥羽市の主産業の一つである観光業における労働力の確保は</p> <p>③ 子育て支援の拡充における期待できる効果について。 ・産業において考えられる波及効果は ・移住定住施策における波及</p> <p>④ 鳥羽市における子育てに重点をおいた地域共生社会実現の可能性について。 ・子育てに重点をおいた施策における地域共生社会実現の可能性は ・0歳児保育や24時間365日保育の実現の考えは</p> <p>⑤ 子育て支援の拡充に対する市長の考えは。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	14番	氏名	世古安秀
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 市営定期船・かもめバスの「敬老パス」事業について</p> <p>超高齢化社会が進んでいるなか、高齢者のおでかけの促進と健康寿命の延伸、医療費の抑制、介護予防、本土から離島や南鳥羽へ観光スポット周遊などを目的に、市内在住の70歳以上の高齢者を対象に市営定期船とかもめバス運賃を無料とする「敬老パス」を発行できないか。</p> <p>① 鳥羽市の高齢化率と70歳以上の高齢者数は何人か。  ② 離島の各町内会や高齢者から定期船の運賃について、市長にはどのような声が届いているのか。  ③ 敬老パス事業を行った場合、新たな運行経費が発生するのか。  ④ 敬老パス事業を行った場合、定期船・かもめバスそれぞれどれだけの収益減が想定されるのか。  ⑤ 実証実験を行う考えはないか。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	14番	氏名	世古安秀
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 小中学生や高校生、女性等の声を市政のカタチにする方策について</p> <p>子どもたちや高校生、女性が行政や政治に関心を持つ事は非常に大事なことである。特別なニーズのある人たちの声をどの様に聞き取り、聞いたことをどのように市政にカタチのあるものにしていくのかを問う。</p> <p>① 議会では昨年10月と本年1月に加茂小学校の子ども議会やミライトークを実施した。今後、子どもたちは市長へ提言を行う予定であるが、市長は受けたこどもたちの声をどのように市政に反映させていくのか。</p> <p>② 高校生の市政に対する声を聞く場はこれまで設けてきたか。</p> <p>③ これまで女性等の意見をどう汲み上げてきたのか。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	14番	氏名	世古安秀
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 人口減少・少子化対策の一環策として、若者が交流し出会える場づくりの推進について</p> <p>人口減少対策の一環として、鳥羽ならではのウォーキング体験やボランティア活動で、若者が交流し異性と知り合える場づくりを行う取り組みについて問う。</p> <p>① 鳥羽市の人口減少の現状とその要因は。  ② 出生率の現状はどうか。  ③ 市長は少子化の要因をどう考えているのか。  ④ 鳥羽ならではのウォーキング体験やボランティア活動で、若者が交流し異性と知り合える場づくりを行えないか。  ⑤ 広域行政での取り組みができないか。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			



発言通告者	議席番号	7 番	氏 名	山 本 哲 也
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市の人口減少にかかる施策について</p> <p>人口減少、少子高齢化が加速する中で、本市が重点を置いて展開する施策と市民が求める鳥羽市の将来像との乖離がみられるように感じる。</p> <p>将来人口推計で2040年には約1万人と推計が出ている中で、鳥羽市の向かうべき方向性、とるべき施策について以下の点を中心に市長の考え方を聞く。</p> <p>① 子育て支援策について。  ② 教育環境の充実について。  ③ 移住定住支援策について。  ④ 市民・各種団体との連携について。</p> <p>&lt;市長、教育長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	坂 倉 広 子
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 離島における医療環境の整備、オンライン診療（遠隔医療）について</p> <p>離島は、わが国の領域保全、レアアース等豊富な海洋資源や海洋エネルギーの確保海の治安維持など「国家的役割」とともに、島独自の継承される歴史や文化、自然環境等、島の魅力を生かした交流や教育の場の提供など「国民的役割」を担ってきており、近年益々その重要性が増している。しかしながら、人口減少・高齢化、雇用の場の減少や、医療提供体制の脆弱さが浮き彫りになっている。</p> <p>「住み続けられる離島」の実現に向け、救急医療の体制整備・強化、遠隔医療の推進について伺う。</p> <p>① 離島における医療環境の整備、オンライン診療（遠隔医療）について本市の見解を伺う。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	坂 倉 広 子
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 鳥羽市の離島における更なる救急搬送体制の確立について</p> <p>現在、本市において有人離島 4 島全てに市立診療所が開設されているが、神島を除く他 3 島では、医師や看護師が不在となる休日・夜間の急患に対応できないため、症状が軽症の場合でも搬送する事例がある。</p> <p>緊急時には夜間や荒天時を問わず緊急搬送を求められることから、島民の判断により漁協などが所有する船を活用し、漁協関係者が操縦または同乗するなどして対応するケースが多く発生している。</p> <p>この場合、状況によっては二次災害につながる危険性もあることから、該当地域からは天候や時間帯に関わらず公共による安全な搬送体制の構築を望む声が多く上がっている。</p> <p>そこで、鳥羽市の離島における更なる救急搬送体制を確立し、同じ市民である島民の命と健康を守るための取り組みについて伺う。</p> <p>① 救急搬送に係る補助金(鳥羽市離島救急患者搬送費補助金)の拡充について。</p> <p>② 24 時間出動が可能となる救急艇の導入について。</p> <p>③ 緊急搬送に係る鳥羽海上保安部への協力要請について。</p> <p>&lt;市長及び担当課長&gt;</p>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	坂 倉 広 子
<p>件名及び 要 旨</p>	<p>○ 発達性読み書き障害（ディスレクシア）について</p> <p>ディスレクシアは、日本の小学生の約7～8％に存在するといわれております。従って、読み書きを苦手とする児童はクラスに平均2～3人いるとみられます。ディスレクシアは、周りの人が理解し適切なサポートをすることで、困難さを軽減することもできるとされています。そこで、ディスレクシアへの適切なサポート体制について伺います。</p> <p>① 公立小中学校において、ディスレクシアの疑いがある児童・生徒をどの程度把握しているか。また、ディスレクシアの疑いのある児童・生徒を早期に発見できるよう学校現場では、どのような検査が行われているか。</p> <p>② 障害の困難さを軽減するため、学校現場においてタブレット端末の活用やデジタル教科書を効果的に活用する考えはないか。</p> <p>③ 教育現場のみならず、専門医の診断を必要とする場合もあるが、医療機関への接続をスムーズ行う体制はどのようになっているか。</p> <p>④ 発達性ディスレクシアに関する分かりやすいリーフレットの作成や、学習会・講演会を実施についての考えはないか。</p> <p>&lt;市長、教育長及び担当課長&gt;</p>			